

「サクラフェスティバル 2025」(デンマーク・コペンハーゲン) 出展報告書

イベント名	: コペンハーゲンサクラフェスティバル (Copenhagen Sakura Festival)
日時	: 2025 年 4 月 26 日 (土)、27 日 (日)
場所	: デンマーク・コペンハーゲン ランゲリニー公園
主催者	: コペンハーゲンサクラフェスティバル実行委員会 ※在デンマーク日本国大使館、コペンハーゲン市、その他日本関連 の文化・民間団体により運営
参加者数	: 非公表
ホームページ	: https://sakurafestival.dk/

1 イベント概要

(1) デンマーク

デンマークは、北欧諸国の一つであり、スカンジナビア半島の南西に隣接しています。国土の大部分を占めるユトランド半島は、南側でドイツと接しており、また国全体が大小 400 以上の島々で構成されています。首都コペンハーゲンもその一つ、シェラン島に位置しています。国土面積は九州とほぼ同じで、人口は約 598 万人です。

こうした背景を持つデンマークからの訪日者数は、2024 年に 40,950 人と、コロナ禍前である 2019 年の 32,893 人を上回っており、日本への関心が高まっていることが伺えます。

(2) サクラフェスティバル

サクラフェスティバルは、デンマークにゆかりのある日本企業が桜の木を 200 本ランゲリニー公園に寄贈したことをきっかけに、2008 年から始まりました。コペンハーゲン中心部に位置するこの公園は、オーレスン海峡に面しているため、風が強い日は非常に寒くなることもありますが、両日ともに天候に恵まれ、たくさんの人々が訪れました。

会場内には、盆栽の展示ブースや、おにぎり、かき氷、たい焼きなどの日本食を販売するブースが並び、いずれも多くの人々が訪れていました。また、公園中央に設置されたメインステージでは剣道や空手の演武が披露され、ときおり歓声上がるなど、会場は大いに盛り上がりました。



イベントステージで空手の型を披露する
子どもたち

2 当事務所ブースでの出展内容

(1) 各地方自治体パンフレットの配布およびポスターの掲示

イベント期間中は全国の地方自治体から提供を受けたパンフレットを約1,400部用意し、来場者に配布しながら各地域の魅力を紹介しました。

各パンフレットの表紙には日本各地の美しい風景の写真や名産品の写真が使用されていたこともあり、多くの来場者が興味を示して手に取ってくださる好評ぶりで、2日間いずれも終了予定時刻を待たずに全てのパンフレットの配布が終了しました。

ブースを訪れた来場者のほとんどは、まだ日本を訪れたことがないという方でしたが、「いつか行ってみたい」

「近く訪日する予定がある」といった前向きな関心を示していました。日本への旅行を計画中の方からは、「日本を訪れるベストシーズンはいつか」「観光客が少なく、伝統的な風景や食文化を楽しめる場所はあるか」といった質問が多く寄せられました。

一方、訪日経験のある来場者からは、東京や大阪といった定番の都市への関心のほか、「次は都市部ではなく地方を巡りたい」といった声も多く寄せられ、現地での体験型アクティビティや観光情報など、地方の隠れた魅力に対する関心の高まりが印象的でした。



多くの来場者でにぎわうブース

(2) 書道コーナー

日本文化体験の一環として、来場者の方のお名前をひらがなとカタカナで筆書きする書道コーナーを1日目に設けました。ひらがなやカタカナのほかにも「漢字で書いてみてほしい」という要望や「名前の意味を日本語で書くとどうなるか」といった質問があるなど、書道や日本語への高い関心があることも伺えました。



書道コーナーの様子

(3) 折り紙体験コーナー

書道コーナーと同じく日本文化体験の一環として、2日目にチューリップ・ネコ・鶴などをスタッフと一緒に折る折り紙体験コーナーを設けました。全世代の人が訪れてくれましたが、特に子どもたちの参加が目立ちました。最も人気だった折り紙は鶴で、「そのドラゴンを作りたい」と目を輝かせる子もいました。

ただ、鶴は難易度が高く、挑戦したものの途中で諦めかける場面も見られましたが、職員と一緒に手伝いながら最後まで完成したときには、最高の笑顔で「ありがとう」と言ってくれました。この体験を通じて少しでも日本文化が伝わったことが嬉しく思いました。

（４）その他

上記（１）～（３）のほか、各日書道または折り紙のブースが終了したあと、法被写真撮影コーナーを設けました。このコーナーは、当事務所スタッフがイベント出展の際に着用している赤い法被を来場者に着ていただき、撮影するというものです。

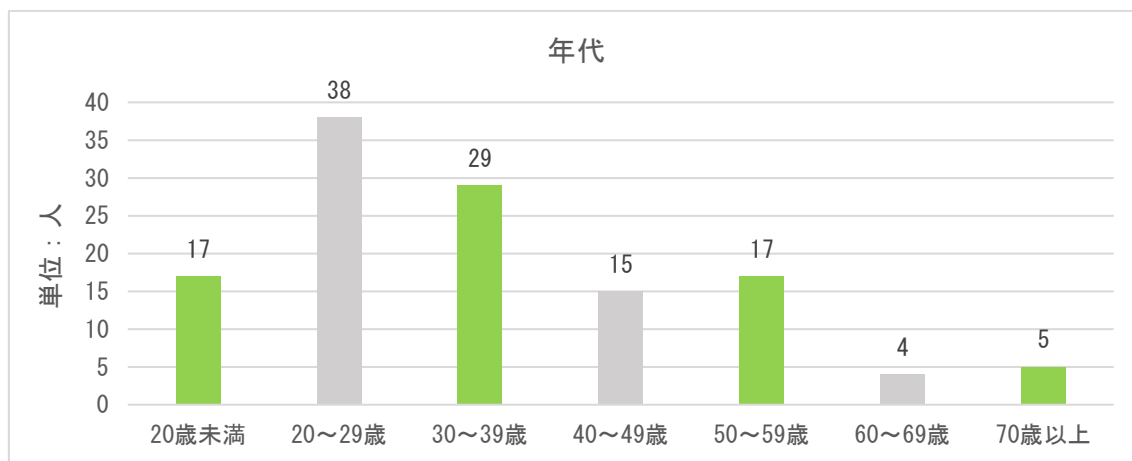
加えて、当事務所Instagramアカウント「@localeyesjapan」のPRも行いました。当事務所のアカウントでは、各都道府県の観光スポットやイベント、郷土料理のレシピを紹介しています。フォローしてくださった方には、ポストカード、キーホルダー、バッチなど各地方自治体のグッズをプレゼントしました。

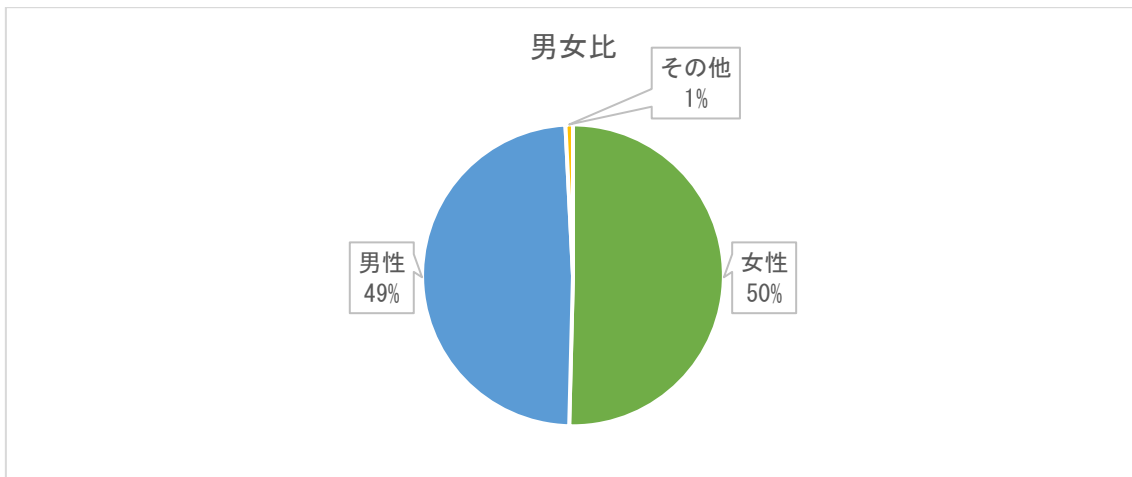
3 アンケート結果

来場者の方々にご協力いただき、計 125 名にアンケートを取ることができました。各質問項目およびアンケート結果については以下のとおりです。

（１）回答者の年代および性別

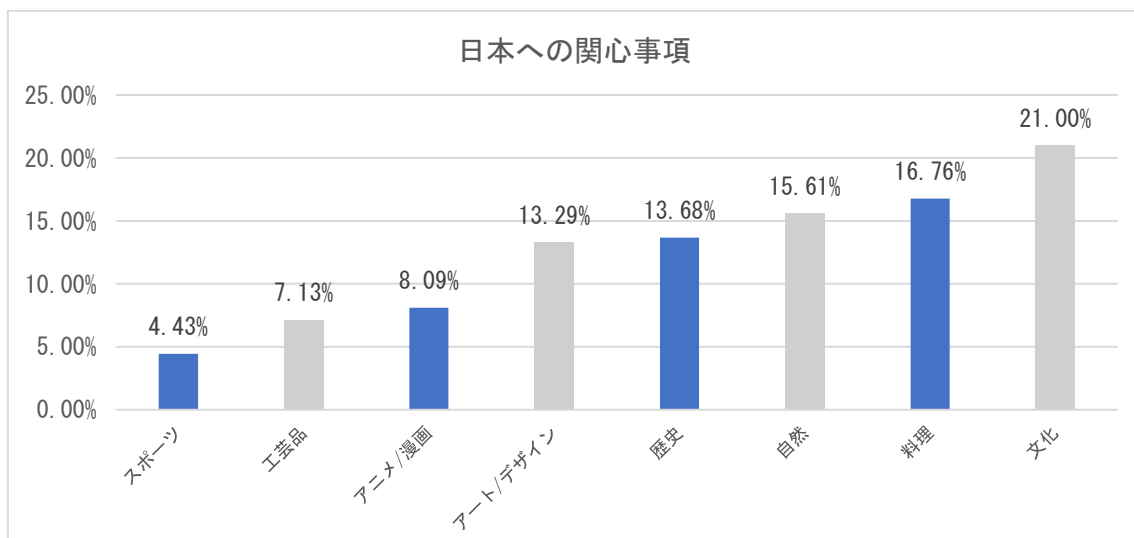
20～29 歳が最も多く、全体の約 3 割を占めています。男女比は男性 61 名、女性 63 名、その他 1 名と、ほぼ均等でした。

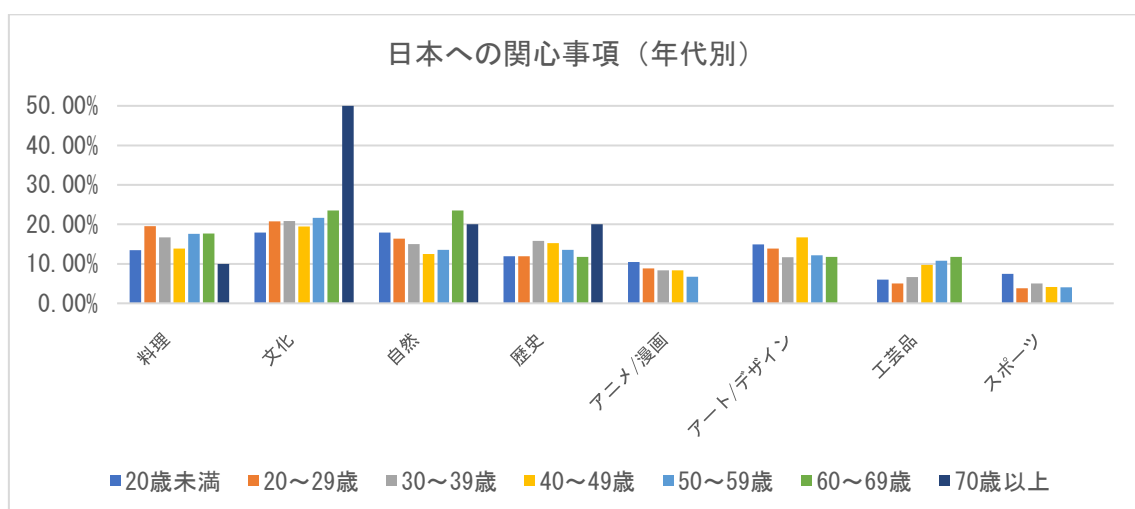
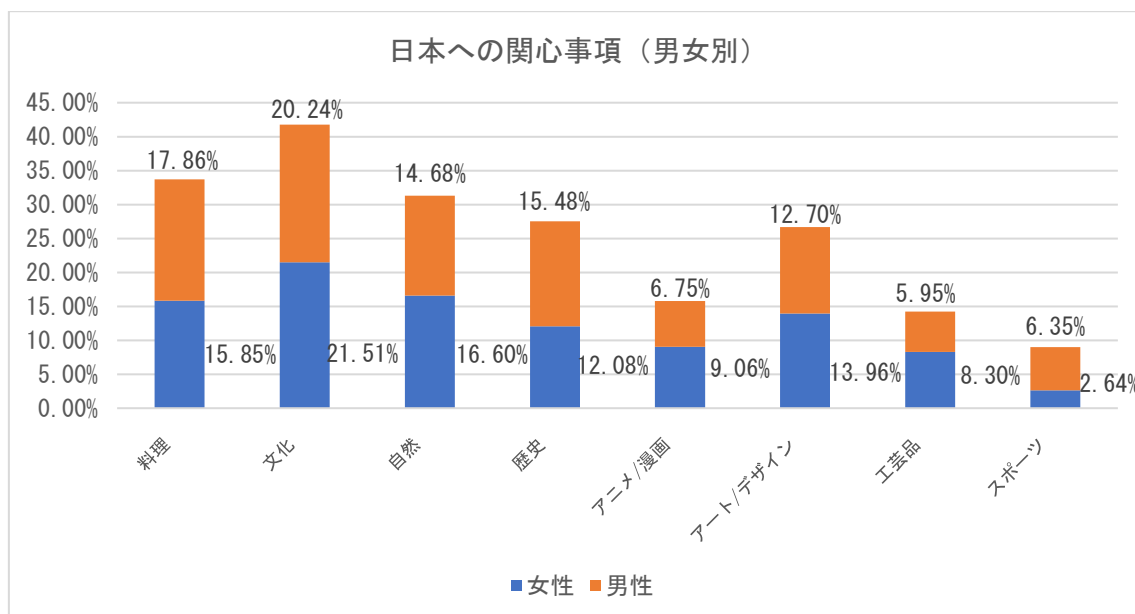




(2) 日本への関心事項

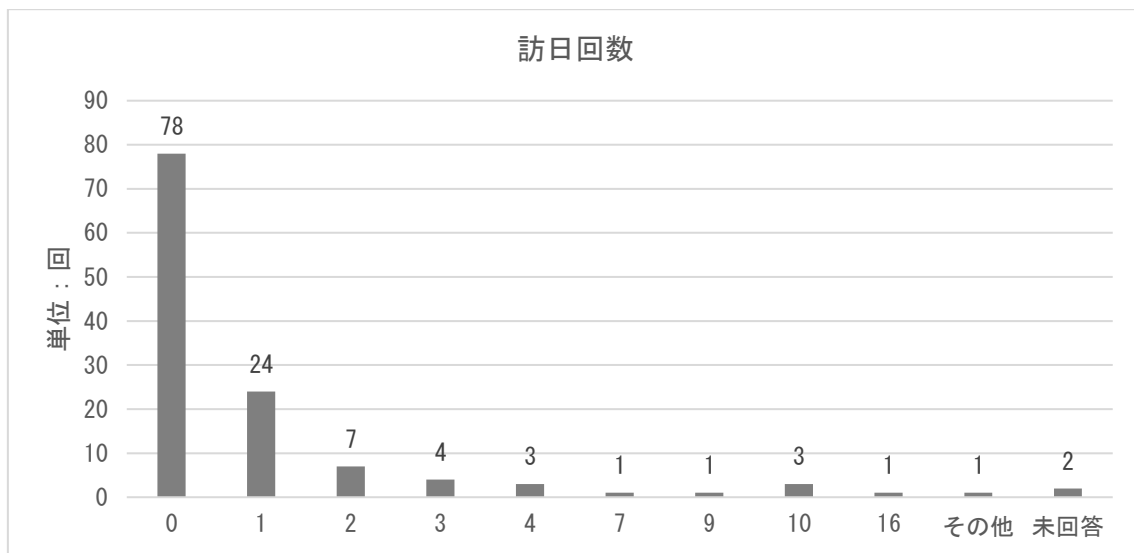
男女別および年代別でアンケートを整理しましたが、男女別では大きな差はありませんでした。特に関心が高かったのは「文化」「料理」「自然」の順で、これら3項目で全体の約53%を占めました。これは昨年度と同様の傾向であり、引き続き高い関心が寄せられていることがうかがえます。また70歳以上は他の年代と比較して、「文化」に関心を持つ割合が高いことがわかりました。





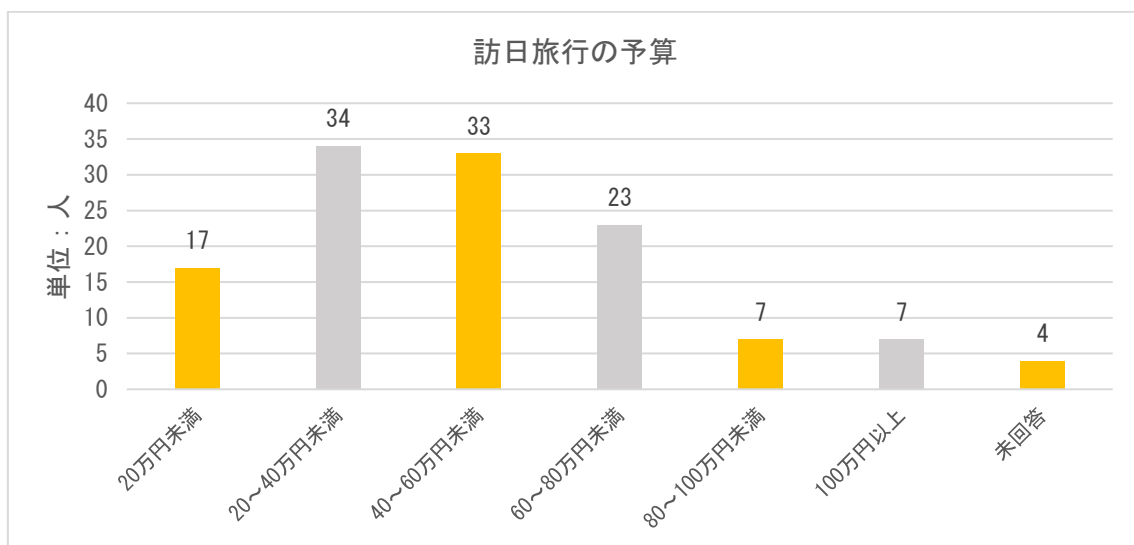
（３）訪日回数

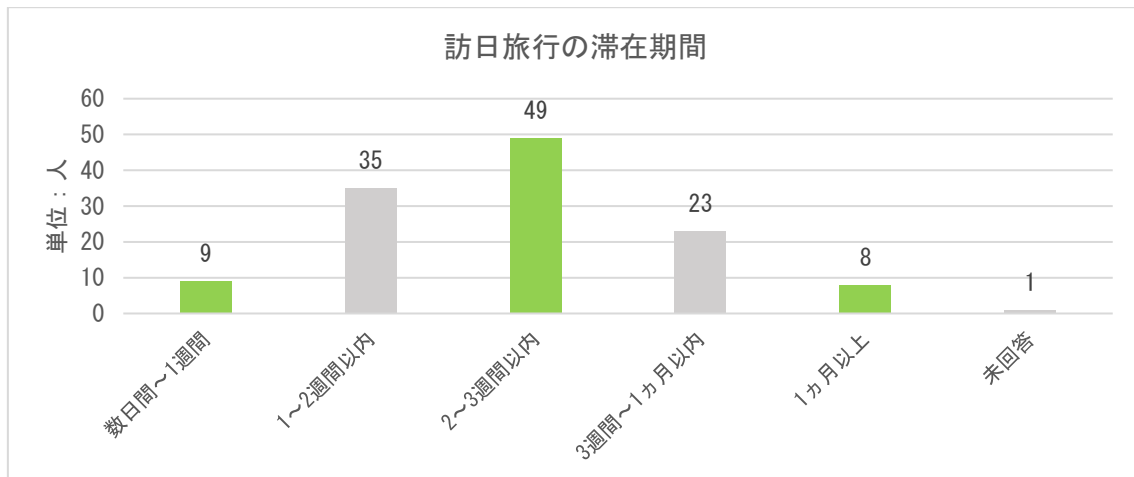
今年度新たに訪日回数について質問したところ、訪日経験がない方が 78 人と、約 62%を占める結果となりました。一方で、1 回の訪日経験のある方が 24 人と次点で約 20%を占めており、中には 10 回以上訪日経験のある方が計 4 人と、日本に非常に強い興味関心等を寄せる方も見受けられました。



(4) 訪日旅行時の予算（フライト代除く）および滞在期間

訪日旅行時の予算について、20～40 万円未満が 1 位、40～60 万円未満が 2 位、そこに 60～80 万円未満が 3 位と続きます。また、滞在期間については 2～3 週間が最も多く、1～2 週間以内、3 週間～1 か月以内と続きます。



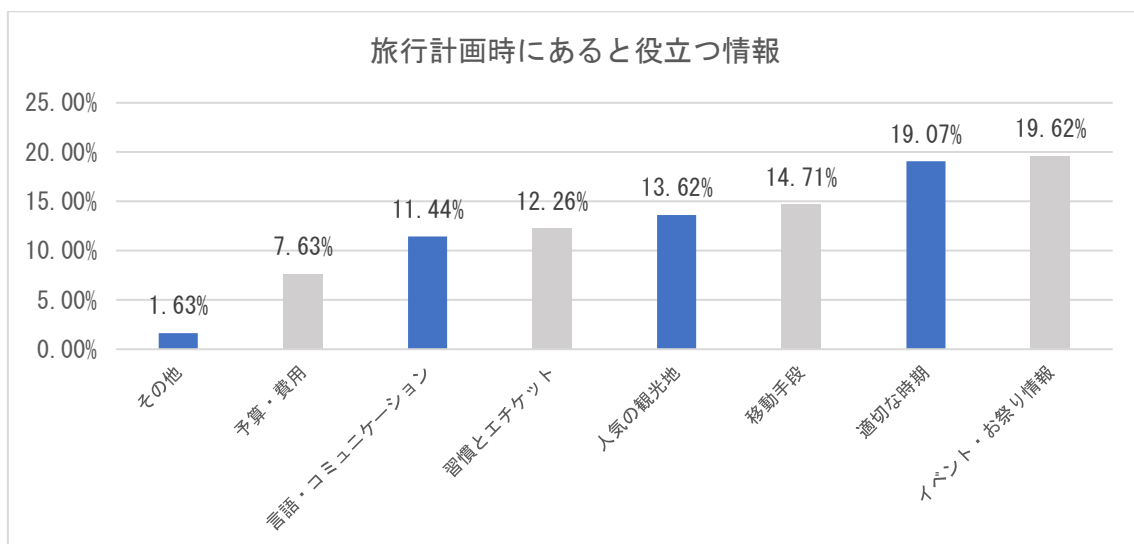


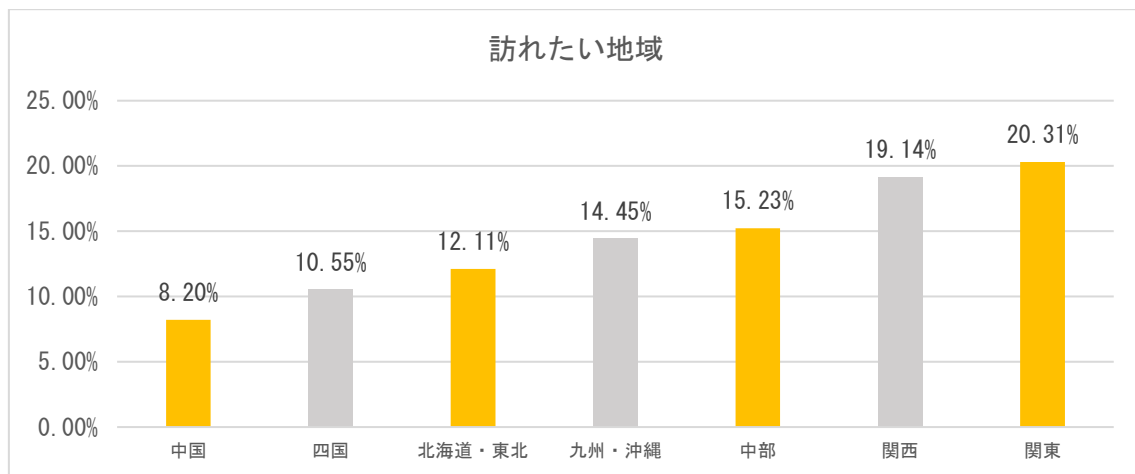
(5) 訪日計画する際に役立つ情報および訪れたい地域

「旅行を計画する際に役立つ情報」は、今年度から新たに設けた設問で、選択肢は、適切な時期、人気の観光地、習慣とエチケット、移動手段、予算／費用、言語／コミュニケーション、イベント／お祭り情報、その他（自由記述）の8項目を用意し、複数回答で選んでももらいました。その結果、「イベント／お祭り情報」（19.62%）と「適切な時期」（19.07%）が最も多く選ばれ、次点の「移動手段」（14.71%）と比べて5%以上の差が見られました。この結果から、旅行者が特に求めている情報の傾向がより明確になったと言えます。

また、訪れたい地域については、関東が20.31%、続いて関西が19.14%、中部が15.23%という結果になりました。同日程にてアイルランド・ダブリンで開催されたエクスペリエンスジャパンでは関西が1位、関東2位、九州・沖縄3位となっており、アンケート実施国による地域差がある可能性があります。

なお、本アンケートでは訪日経験の有無による違いは区別しておらず、そうした傾向の違いは今回の結果には含まれていません。





5 まとめ

サクラフェスティバルへのブース出展は今回で3回目となりましたが、毎年、デンマークの人々の日本への関心の高さを実感しています。今年度もパンフレットの配布や書道・折り紙体験コーナーなど全て好評のうちに終えることができました。前述のとおりパンフレットは早々になくなり、書道や折り紙体験コーナーは行列ができるほど多くの方が訪れました。一方で、多くの来場者に恵まれるなかで、一人ひとりへの丁寧な対応の難しさなど、運営面での課題も見えてきました。

良かった点は継続し、改善すべき点は今後の課題として認識したうえで検討しつつ、引き続き当事務所では効果的に日本の地方自治体の魅力を発信できるよう努めてまいります。